

ハイドランジア アルボレスケンス ‘アナベル’ の促成開始時期と加温温度

工藤則子・高橋佳孝*・小野恵二**

(山形県村山総合支庁・*山形県置賜総合支庁・**山形農総研セ農生産技試)

The Forcing Time and Forcing Temperature of *Hydrangea arborescens* ‘Annabelle’

Noriko KUDO, Yositaka TAKAHASHI* and Keiji ONO**

(Murayama Branch of Yamagata Prefectural Government Office, *Okitama Branch of Yamagata Prefectural Government Office

**Department of Agro-production Science, Yamagata General Agricultural Research Center)

1 はじめに

ハイドランジア アルボレスケンス ‘アナベル’ は、寒地・寒冷地向き花木で、切り枝には「フレッシュグリーン」、
「フレッシュホワイト」、
「ドライグリーン」の3種類の切り前がある。山形県では、「フレッシュグリーン」での出荷を主体とした栽培を推進している。露地栽培では出荷時期が6月中旬～7月上旬の短期間に集中することから、生産の拡大と収穫労力の分散を図るため、露地出荷前の促成栽培の作型について、加温開始時期と加温温度について検討した。

2 試験方法

(1) 加温開始期と開花、品質 (平成16年)

供試材料は、平成14年9月に挿し木を行い、9cmポリポットで育苗し、平成15年春にボックス(縦40×横60×深さ25cm, 容量30L)に2株(株間20cm)を移植し、露地に置床して養成栽培し、同年12月に株の基部で台刈りした三年生株を用いた。ボックスの培地は畑土ともみ殻堆肥を等量混合したものを使用した。

露地区(対照)は、平成14年9月に挿し木し、同年10月にうね幅180cm, 株間50cm, 1条植に定植した三年生株を使用した。

試験区は、加温開始日を1月16日、2月13日、3月12日の3時期とし、3月12日に保温のみの区を設け、各加温開始日に、露地に置床しているボックス定植株を加温ハウスに移動した。

加温はハウス内最低温度15℃を目標とし、日中は28℃で換気した。露地区は地床で露地栽培を行った。

試験規模は、1区2ボックス(4株)とした。

収穫時の切り前は、「フレッシュグリーン」とした。

(2) 加温温度、加温開始時期と開花、品質 (平成17年)

供試材料は試験(1)と同様の三年生株を用いた。

試験区は、加温温度を15℃、8℃、保温のみの3区を設け、加温開始日3月11日、3月31日の2時期で検討した。

試験規模、収穫時の切り前は試験(1)に準じた。

3 試験結果及び考察

(1) 加温開始期と開花、品質

収穫始期は、加温開始1月16日区が4月27日、同2月13日区が5月6日、同3月12日区が5月20日、保温区が6月8日であった。

切り花品質は、加温各区で、花房の形状が扁平から菱形状に乱れた不良花が発生し、商品性が低下した。不良花の発生は、1月16日区が多く、2月13日区と3月12日区では少なく、保温区ではみられなかった(表1)。

(2) 加温温度、加温開始時期と開花、品質

収穫期は、加温区で5月下旬～6月上旬となった。到花日数は15℃区が8℃区よりも2～4日短く、加温開始時期3月31日が同3月11日より15～17日短縮した。保温区の収穫期は6月上旬で、保温開始時期による差はなかった。

促成各区の商品収量は株当たり10～16本程度で露地区よりも少なかったが、ボックス栽培の根域制限による立毛数減少によるものと考えられた。また、各区とも不良花の発生はなかった(表2)。

切り花品質は、促成各区間では大差はなかった。露地区との比較では、切り花長が長く、上位規格の割合が多かった(表3)。

4 まとめ

ハイドランジア アルボレスケンス ‘アナベル’ の株促成の加温又は保温の開始時期は3月下旬が適し、露地栽培と同程度の切り花品質が得られる。3月中旬以前の加温開始は、花序の生育に乱れが生じ不良花が発生する可能性がある。

収穫始期は、山形県平坦部で加温温度15℃では5月下旬、同8℃では6月上旬、保温のみでは6月上中旬頃となる(図1)。

表1 加温開始時期と収穫時期、収量(平成16年)

加温開始日	加温温度	収穫			萌芽 所要日数*1 (日)	到花 日数*1 (日)	商品 収量*2 (本/株)	不良花 発生程度*3
		始期 (月. 日)	盛期 (月. 日)	期間 (日間)				
1月16日	15℃	4.27	5.05	14	39	102	7.8	多
2月13日	15℃	5.06	5.10	5	19	83	7.8	少
3月12日	15℃	5.20	5.23	5	5	69	7.5	少
3月12日	保温	6.08	6.12	6	13	88	8.0	無
露地		6.18	6.22	6	-	-	12.0	無

*1: 促成開始日から、萌芽、収穫始期までの日数

*2: 切り花長50cm以上、不良花含む

*3: 達観による不良花発生程度 多(70~100%)、中(30~60%)、少(10~20%)

表2 加温温度、加温開始時期と収穫時期、収量(平成17年)

加温温度	加温開始日	収穫			萌芽 所要日数*1 (日)	到花 日数*1 (日)	立毛数 (本/株)	商品 収量*2 (本/株)	不良花 発生程度*3
		始期 (月. 日)	盛期 (月. 日)	期間 (日間)					
15℃	3月11日	5.25	5.31	14	26	81	16	10.3	無
15℃	3月31日	5.31	6.03	11	11	64	25	14.0	無
8℃	3月11日	5.31	6.02	14	31	83	26	11.5	無
8℃	3月31日	6.04	6.08	9	14	68	26	13.3	無
保温	3月11日	6.08	6.10	5	31	91	23	11.3	無
保温	3月31日	6.08	6.08	5	18	70	32	16.3	無
露地		6.20	6.22	7	-	-	44	25.0	無

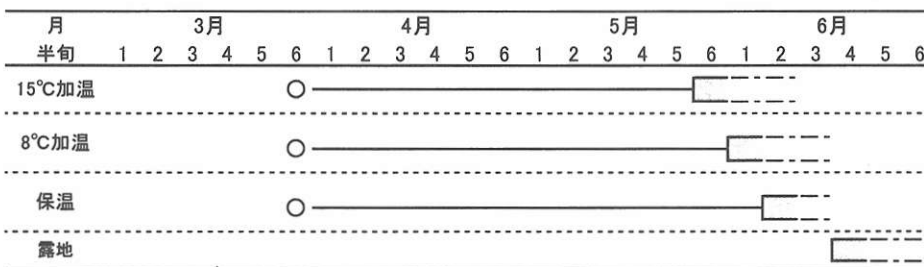
*1: 加温開始日から、萌芽、収穫始期までの日数

*2: 切り花長50cm以上

*3: 達観による不良花発生程度 多(70~100%)、中(30~60%)、少(10~20%)

表3 加温温度 加温開始時期と品質、規格別商品割合(平成17年)

加温温度	加温開始日	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	花房		莖径 (mm)	規格別商品割合			
					径 (cm)	厚さ (cm)		50~60cm (%)	60~70cm (%)	70~80cm (%)	80cm以上 (%)
15℃	3月11日	94	53	7.7	14.7	6.3	6.5	0.0	7.3	4.9	87.8
15℃	3月31日	96	45	7.1	12.4	4.3	6.8	1.8	3.6	16.1	78.6
8℃	3月11日	96	44	6.6	12.2	4.1	6.3	2.2	6.5	6.5	84.8
8℃	3月31日	101	48	6.6	12.5	4.9	6.6	0.0	7.5	7.5	84.9
保温	3月11日	97	45	6.5	12.2	4.2	6.3	0.0	4.4	6.7	88.9
保温	3月31日	95	43	6.1	12.4	5.7	6.4	0.0	9.2	18.5	72.3
露地		87	55	6.4	10.0	4.7	7.4	1.6	12.0	16.8	69.6



○: 加温または保温開始時期 □: 収穫時期

図1: 促成栽培の作型(山形平坦部)